



蒲生高校だより

第5卷 第3号 (通巻15号)

発行日 平成19年3月23日

鹿児島県立蒲生高等学校

朝の来ない夜はない!!

教頭 緒方 正範

中庭にある岩ツツジの花が、今を
さかりと薄紫の花を咲かせています。
今年もこの季節に、本校から163
名の生徒諸君が、それぞれの選んだ
道に向かって飛び立って行きました。
旅立ちの時に、高校生活3年間を振
り返り、生徒諸君の胸に去来するも
のは何だったのでしょうか。日々の学
業・部活動の他、学校全体でもしく
は、学級全員で盛り上げた学校行事
の数々…。飛び散る汗と感動は青春



**生徒会
ボランティア**

昨年度に引き続き、蒲生高校は蒲生町社会福祉協議会から「蒲生町児童・生徒のボランティア活動普及事業協力校」の指定を受けました。本校ではこの指定を受ける前から、年に数回のボランティア活動に取り組んでいます。そこで今回は、地域の皆さんに感謝の気持ちを表そうとすることができたと考え、蒲生八幡神社境内・神社から高校までの道路沿いの清掃を行いました。2月23日当日は、部活動生を中心に生徒・職員合わせて約120名が八幡神社に集合し、その後、境内、学校までの3ルート、計4グループに分かれて作業に取り組まれました。何気なく通っている道もよく見ると、多くのゴミが落ちており、学校へ持ち帰ったゴミは数十袋にもなりました。参加した生徒・職員から「寒かったけど、頑張ったから達成感があった!」「友達や先生といんな話ができた」「またやりたい!」などの声が聞こえてきたのが印象的でした。

今後も生徒会を中心に様々な活動を計画したいと考えています。そのときは皆さんのご協力をぜひお願いします。



の証であり、その躍動は本校の勢い、誇りでもあります。

しかし、このような流れの中で、自らを見失い、高校生活への意欲を失っている人はいませんか。人生で最も理想に燃え、突き進んで欲しい高校時代。在校生諸君には、目標を見失い、情性で安易な方向に流れ、悔いの残る高校生活だけは送って欲しくありません。

現在のように激動し、価値観の多様化する社会では、夢は持ちにくいと言われます。だからこそ、小さくてもいい、自分なりの夢や希望を持ち続け、学習や部活動に励んで欲しいのです。もちろん勝つからこそ、明日を信じ日々頑張っていくかと思

このたび、ハンドボール部が創部6年目にして初の全国大会出場を決めました。そこで、全国大会に向けての抱負を部長に語ってもらいました。

「私たちハンドボール部は、県高校新人大会において優勝し、3月24日から徳島県で行われる全国大会へ出場する切符を手にすることができました。初の全国大会出場ということで、緊張と不安もありますが、今までしてきた練習の成果を出し切れば、全国にも十分通用すると思っ

ます。

今年度本校は、日頃の保健活動の成果により、鹿児島県学校保健優良学校に指定されました。そして（念願だった）前期耐震工事も完成し、校舎が綺麗になりました。

リニューアルされた施設で、今一度、心をリセットして、来るべき新年度に向かって、自分のなりの夢や希望をもち、活動して欲しいのです。もし本当にきつくて、きつくて、きつくて嫌な日があったら、一晩耐えて下さい。夜が明けると、一晩耐えることができましたのです。朝の来ない夜はありません。日々自分を信じ、歩き続ける者だけに、確実に新しい未来があります。

ています。また、レベルの高いチームを見ることで今後の自分たちのプレーの幅を広げていきたいです。鹿児島県の代表として堂々と全国で戦ってきます。応援よろしく願います。」

(部長 神宮司 せり奈 重富中出身)

県高校新人大会での優勝が南日本新聞にとりあげられました。

(1/16 (火) 南日本新聞 朝刊)

ハンドボール部

県高校新人大会
(1/13~15)

優勝

飛躍する部活動

後半に地方自治

主権も、現代法として必ずしもかしくないブレインをした
い一と認めた。

念願の「全国切符」

○「女子は衛生が初の
全国切符」をつかんた。
優勝を決める戦いとなった
運動会は一躍一振の交戦だ
つが、「走りだきなどや
つて練習をやつてきたので
自慢はあった」と主権の神
戸市、U-18女子日本代表

祝 全国大会
出場決定!!

於)徳島市 3/24~

がんばれ!!
蒲生バンド部!

鹿県高校新人ハンド
女子蒲生、男子鹿工全国へ

[illegible]

【女子は勝リーグ 藤生一樹(慶應)】前半25分、藤生・神谷のシニートでは
6-4-4-0 三浦(慶應)より二十

先輩による進路講話

1月23日(火)に「先輩による進路講話」が1・2年生を対象に行われました。講師は、本校の3年生5名。講師たちは、入学してから進路実現に至るまでどのような努力をしてきたかを、様々な体験談をもとに後輩たちに話してくれました。

就職・進学に関わらず共通していた彼らの努力点は、面接や小論文の練習を数多くこなすことでした。これらには、日頃の学習意欲、言葉遣い、他者に対する礼儀や生活態度などが明確に反映されます。講師たちは進路実現にあたって、この大切さを実感したからこそ、後輩たちに今の自分のあり方を考え、将来を意識して高校生活を送って欲しいと語ってくれました。

講師の1人情報処理科3年2組 柴下勝広くんは、「進路を決めるこ

とは自分の人生を大きく変えること」と述べました。1・2年生には、この言葉の持つ意味を理解し、進路実現に向けて自分を伸ばさせて欲しいと思います。高校生活3年間を、どのように人生に生かすかは自分次第なのです。



職場・上級学校訪問

～前へ！～

1学年主任 坂口 新一



1月31日、本年度の職場・上級学校訪問を実施しました。一年生諸君に、出来るだけ早い時期から進路意識を高めて欲しいという思いで始めて、今年で5回目になります。

当日は、4コースに分かれて、バス5台で出発しました。鹿児島動物専門学校・鹿児島ハイテク専門学校・鹿児島国際大学(Aコース)、城西プロフェッショナルカレッジ・鹿児島女子短期大学・鹿児島純心女子短期大学(Bコース)、第一リハビリテーション専門学校・第一工業大学・第一幼児教育短期大学・志学館大学(Cコース)、福山醸造株式会社・自衛隊国分駐屯地・株式会社京セラ国分工場(Dコース)の10校、3事業所です。

それぞれの上級学校では、充実した設備を見学し、カリキュラム等の説明を受けました。また、事業所では、働くことの意義や責任を身をもって感じることでした。訪問先の方々は、本校生のために、多忙な業務を調整して下さいました。心から感謝申し上げます。生徒諸君は、いずれ何らかの職業に携わることになります。現場に触れて感動の声を上げる生徒たちが多く、担当の方にお叱りを頂く場面もあったようです。

様々な機会を生かし、体験を自分のものとして、将来について真面目に考え、学ぼうとする姿勢を持ち続けて欲しいと思います。

ロードレース大会



2月9日金曜日に校内ロードレース大会が実施されました。前日から雨で天候が心配されましたが、当日は持ちこたえ、

予定通り開催されました。今大会では新記録は出なかったものの、事前練習が十分できたため、全体的に記録は良く、ほとんどの生徒が完走できました。また、それぞれの力に合わせた懸命に走る姿が印象的でした。生徒達はゴール後、PTAの方々が

準備してくださったドリンクや飴で疲れを癒しました。

大会順位(記録)

男子(10km)の部

1位 山王 駿(普2-1)

35分19秒

2位 有木 基博(普2-1)

3位 田中 祐馬(普1-2)

女子(5km)の部

1位 小門口綾子(普2-2)

21分54秒

2位 大丸華須美(普2-1)

3位 外堀 希(情2-1)

クラス順位 優勝 普1-2
準優勝 普2-1
第3位 普2-2



1月30日(火)～2月2日(金)まで3泊4日で滋賀、京都、大阪方面へ修学旅行を実施しました。生徒数128名、教頭先生を団長とする引率教諭7名で鹿児島空港を出発しました。天気も快晴で、機内から下界の風景もくっきりと見え、旅行気分を盛り上げてくれるいい旅立ちでした。伊丹空港到着後、バスで京都へ向かいました。市内に入るとお寺がいたる所に見え、「さすがにお寺のメッカだなあ」と感心させられました。清水寺では長い土産店の並ぶ坂道を登りつめ、よく映画にでてくる舞台にたどり着きました。そこからの京都市内の眺めは私達の心をなごませるものでした。金閣寺、嵐山を見学後、京都を後にして緑水亭旅館に到着。その旅館は目の前に琵琶湖が広がり自分の気持ちがその湖にゆっくりと吸い込まれていくような宿でした。

翌朝8時に旅館を出発し、スキー場に向かいました。4人乗りのゴンドラで約10分ぐらいかけて上りました。上がるにつれてまぶしく水面の光る琵琶湖が眼下に広がってきました。そして上方にはだんだんと白銀の世界が見えてきました。早速



修学旅行記

2学年主任 中村 俊郎

スキー靴に履き替え、スキー片手に、開校式に参加しました。その後班ごとにインストラクターがつき、レッスンが始まりました。まずは転んで立ち上がる練習から始まります。スキー靴が固いために、思うように体を動かすことができなかったが立ち上がるのができませんでした。立ち上がっても今度は雪の上のスキーが勝手に動き出し、体を支えるのに一苦労しました。

2日目に入ると、相変わらず転び専門の職員もいましたが、生徒達は昨日の苦い体験は忘れたかのように、斜面を気持ちよくすべっていました。スキーの楽しさがわかり始めた頃には開校式が行われ、親切丁寧に教えてもらったインストラクターの先生方にお礼の挨拶をして、名残惜しいスキー場を後にしました。そして最後の宿泊所となる京都市内の宿へ移動しました。

4日目の朝8時、京都市内の三木

半旅館を出発して大阪のユニバーサルスタジオジャパンに向かいました。中に入ると古風な京都市内の様相とは一変して、アメリカンスタイルに変わり、生徒達は大満足。集合時間の頃には両手いっぱいにおみやげを持ちバスに乗り込みました。

伊丹空港から鹿児島空港に到着。疲れて体でバスにのり学校に到着したときには20時を過ぎていました。

今回の旅行では4、5人のけが人や病人が出ましたが、集団生活の中で人間的な触れ合いや信頼関係をお互いに築き上げられた旅行ではなかったかと思います。



ホームページもご覧ください

<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Kamo/>

鹿児島県始良郡蒲生町下久徳848-2

鹿児島県立蒲生高等学校

電話 0995-52-1155

FAX 0995-52-1161